



# 日本家族看護学会

NEWS Letter

第9・10号

発行日 2014.4.7  
日本家族看護学会  
広報委員会 発行

## 第11回 国際家族看護学会参加の様子



### 第11回国際家族看護学会に参加して

北里大学大学院看護学研究所 蔦沢朋未

平成25年6月18日～22日にかけて開催された、第11回国際家族看護学会に参加してきました。国際学会への参加は初めてでしたが、現地スタッフの心温まる対応や参加者がたくさん声をかけてくださり、大変充実した時間を過ごすことができました。

私は、関心領域のワークショップ、プレゼンテーション、ミシシッピ川ディナークルーズに参加しました。特に印象深かったことは、P.Benner博士の看護教育に関する基調講演とポルトガル、ブラジル、イギリス、日本、カナダからの第一線で活躍する先生方の講演を直接聞く機会を得たことです。

日本からは、北里大学の小林奈美教授が日本における家族看護教育の課題とカルガリーモデルを用いた学部教育事例を発表されました。現在、大学院で勉強中ではありますが、教育者として“教える”ということを真摯に考え続ける大切さを学べてことは大きな収穫でした。そして、積極的に討論に参加される海外の参加者の姿勢も大変刺激になりました。

今回得た貴重な経験を今後の研究活動に活かし、今後、同じ志のある方々と家族看護について意見交換が出来るようになりたいと思いました。

## 第20回 日本家族看護学会学術集会

### 第20回 日本家族看護学会学術集会に参加して

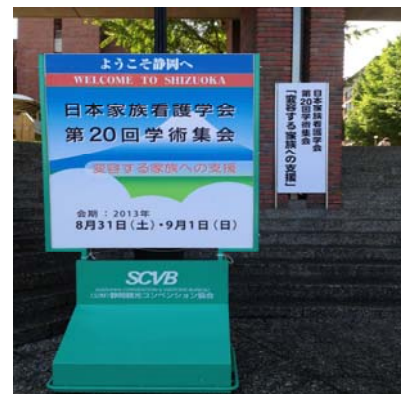
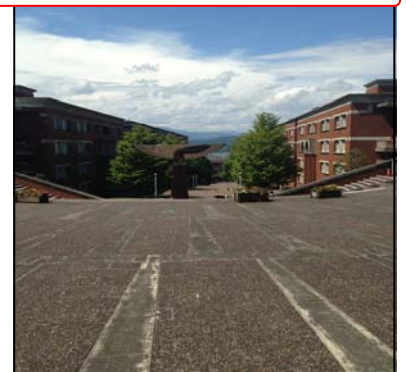
京都橘大学 看護学部 平井 亮

平成25年8月31日(土)・9月1日(日)に静岡で開催された日本家族看護学会 第20回学術集会へ参加してきました。

当日は台風15号の影響で日本全国が雨模様でしたが、第20回大会となる今大会を祝うのごとく、会場のある静岡は晴天でした。私自身、本学術集会への参加は初めてでしたが、心地よい気候の中、参加させていただくことができました。

今大会のメインテーマは「変容する家族への支援」でしたが、特に印象に残っているのは「他職種それぞれの視点から」話し合われたシンポジウムでした。家族を支える看護師の立場から、子供の退院を支えるMSWの立場から、社会的養護における家族支援を行う養護教員の立場から、高齢化社会における家族支援を行う社会福祉の立場から、それぞれの視点を学べたのは多様化する家族看護を考えていく上で、とても大きな経験となりました。また、個人的には、経験領域であるクリティカル領域での家族看護について話し合われたテーマセッションもとても学びになりました。

今回の学びから、多様化し変容していく家族への支援について、自分なりに考えていく機会を得られたことに深く感謝いたします。





【事務局】

〒929-1210 石川県かほく市学園

台1丁目1番地

石川県立看護大学内

日本家族看護学会事務局

TEL・FAX：076-281-8374

Mail：

family\_chiba\_u\_2007@yahoo.c

o.jp

ホームページもご覧ください。

い。

<http://square.umin.ac.jp/>

日本家族看護学会

<広報委員会担当>

小林奈美、河原宣子、

甘佐京子、新井陽子

第21回 日本家族看護学会学術集会のお知らせ

The 21<sup>st</sup> Annual Conference of Japanese Association for Research in Family Nursing



日本家族看護学会  
第21回学術集会

会期 2014年 8月9日(土)・10日(日)

会場 川崎医療福祉大学  
川崎祐宣記念講堂



会長 津島 ひろ江  
川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科  
同大学院 医療福祉学研究科 保健看護学専攻

会長講演  
尊厳あるケアをめざした  
チームアプローチとコーディネーション

招聘講演  
終末期における医療の意思決定への家族の準備  
Preparing Family for their Involvement in  
Health Care Decision Making at the End of Life  
Dr. Marie Nolan Johns Hopkins University

教育講演  
決められない患者たち 堀内 志奈 丸の内クリニック  
意思決定を支える! 地域における高齢者・家族に必要な支援  
二ノ坂 保喜 におさかクリニック

シンポジウム  
クリティカルケアにおける意思決定を支える家族看護  
山勢 博彰 山口大学  
異なる視点から寄り添うことで繋がる支援：認知症の人と家族  
松本 啓子 川崎医療福祉大学  
家族看護の鍵となる新たな視点：遺伝看護 中込 さと子 山梨大学  
家族看護学の深化と拡大への挑戦 野嶋 佐由美 高知国立大学

演題募集期間 2014年 4月1日(火)▶4月30日(水)

事務局 川崎医療福祉大学医療福祉学部保健看護学科内  
〒701-0193 岡山県倉敷市松島289  
E-mail: jarfn21@mw.kawasaki-m.ac.jp

後援 公益社団法人  
日本看護協会、岡山県看護協会

<http://jarfn21.umin.jp>

ゆらぐ家族の意思決定を支える看護



<編集後記>

今回は、NEWS Letter 9・10号合併号として、第11回国際家族看護学会および、第20回日本家族看護学会学術集会についてお伝えいたしました。私自身、本学会への入会は初めてでしたが、広報委員の活動をさせて頂いたり、学術集会への参加させていただくなど経験値を広げることができています。

家族看護に関しては、まだまだ勉強中の身ですが、河原先生をはじめ広報委員の先生方や学会会員の方々のご指導をいただきながら、家族看護を自分の身になじませていければと思っています。

今後も、広報活動を通して様々な方の経験を通して学びを深めていきたいと思っておりますので、何卒よろしくお願い致します。(京都橘大学 平井 亮)